

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
大阪国際がんセンター 総長
松浦 成昭

がんは世界的な問題

我が国ではがんで亡くなる人が圧倒的に多く、死因の約30%を占めており、増加の一途をたっています。一方、世界的には感染症がまだまだ多いですし、戦争・事故など外傷で命を落とす人も多いせいか、世界の健康でがんのことが取り上げられることは比較的少ないように思われます。しかし、最近の統計では世界でもがんで亡くなる人は着実に増加しています。

Lancetによると世界で最も多い死因は虚血性心疾患（死因の16%）で、脳卒中（11%）、慢性閉塞性肺疾患（6%）、肺炎（5%）、母児の障害（4%）と続き、6番目が肺がん（3%）ですが¹、日本の統計のようにがんを一まとめにすると死因の17%を占め、最多死因になります。さらに死亡者の増加率もトップであり直近10年間で25.4%

増えています。

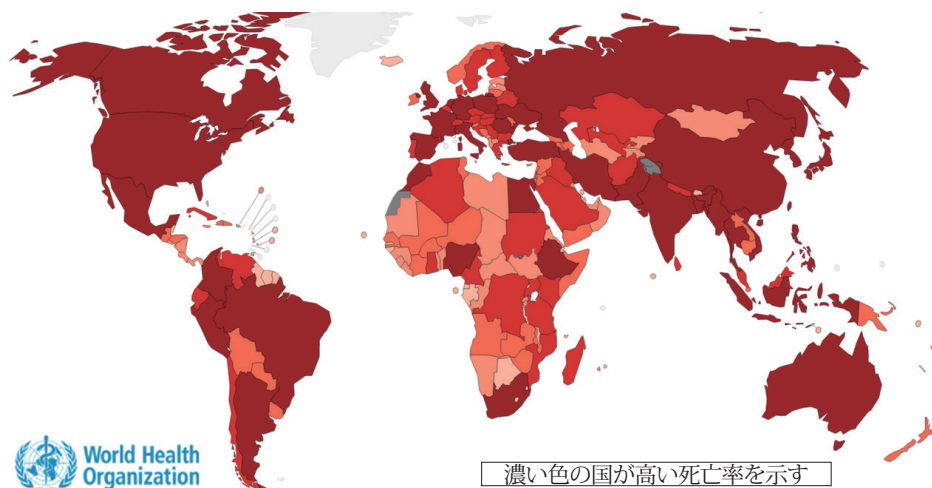
以前は欧米・日本など先進国にがんが多いというイメージがありましたが、今や図のようにがんは世界中で多発しており、アジア、南アメリカのがん罹患は欧米と変わりませんし、アフリカでも増加傾向が著明です。

WHOはタバコに加えて、紫外線・大気汚染などの環境、アルコール・食事因子、肥満、感染症をがんの要因としており、これらの因子は世界共通と考えられます。

「目で見えるWHO」でも今後、がんの話題も時々取り上げ、真剣な議論を促していきたいと思えます。

2023年4月

1. GBD 2017 Causes of Death Collaborators. Global, regional, and national age-sex-specific mortality for 282 causes of death in 195 countries and territories, 1980-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet. 2018; 392(10159):1736-1788.



濃い色の国が高い死亡率を示す

図 世界各国のがん死亡率（2020年）WHO: Global Cancer Observatory より